

## 世界の犯罪と刑事司法の現状

先進国では過去 5 年間、一部の従来型犯罪が着実に減少していますが、その一方で、いくつかの忘れ去られていた犯罪を含め、再び姿を現し、急増を見せている犯罪もあります。

国連事務総長は、国連犯罪動向調査と刑事司法システム（UN-CTS）から得られた証拠をもとに、第 12 回犯罪会議向けの報告書を作成していますが、これによると、過去 5 年間の犯罪と刑事司法の動向は一定していません。

### 21 世紀型海賊行為の台頭：

新聞よりも歴史書で知られることの多かった海賊行為は最近まで、まれにしか見られませんでした。しかし今では、ソマリア沿岸やアデン湾をはじめとする海域で、21 世紀型の海賊が船を襲うという事件が発生しており、2009 年前半だけでもその件数は 140 件を超えています。この種の海賊行為は、船や貨物自体を盗むのではなく、船や人質に対する身代金を要求するという点で、誘拐の様相を呈しています。

陸上でも、米州の多くの国々で誘拐行為が増大しています。その多くは、麻薬取引やカルテル間の抗争に関連しています。

### 殺人：

大半の国々では過去 5 年間、殺人の発生率が低下していますが、特に低下が著しいのはヨーロッパの一部、南米、東アジア、東南アジアおよび南アジアです。しかし、薬物の不正取引に係るものをはじめ、ごく一部の国々では、逆に殺人が増えています。

国連薬物犯罪オフィス（UNODC）の推計によると、殺人罪による死者は 2004 年の時点で約 49 万人であり、同年の全世界での殺人発生率は平均で、人口 10 万人当たり 7.6 件となっています。

ほとんどの殺人には何らかの凶器が絡むことから、殺人発生率は当局が必ずしも把握できない武器による暴力の水準を示すとも考えられます。

### 従来型犯罪：

窃盗犯罪も主として西欧、中欧、東欧の諸国で減少しています。警察が把握している空き巣と車両窃盗の件数は、1995 年から 2008 年にかけてほぼ半減しました。この一貫した減少傾向は、家庭や車両のセキュリティ強化などの抑止策の成果ともいえるでしょう。

殺人を除く従来型犯罪に関して警察が記録しているデータは、犯罪行為全体をカバーしていないこともあるので、犯罪発生率を忠実に反映するとは限りません。それでも、このデータから動向を把握することはできます。

### 薬物関連犯罪：

強盗、窃盗、暴行、空き巣などの犯罪発生率は、薬物使用などの根本的要因によって上昇しますが、その程度を統計で把握することは容易ではありません。

薬物所持から薬物密売まで、把握が比較的容易な薬物犯罪は増えているものの、これが薬物問題の深刻化によるものなのか、法執行活動の強化によるものなのかを判断することは困難です。

#### **人身取引：**

UNODC の「人身取引に関するグローバル・レポート」は、2006年に111カ国で2万1,000人を超える人身取引被害者が確認されたとしています。それでも、この問題の全貌は明らかになっていません。

人身取引罪による訴追はまれであり、データが入手できる国のうち、報告対象期間に何らかの訴追が行われた国は半数に及びません。

人身取引で有罪判決を受ける女性の割合は、他の犯罪よりも大きくなっていますが、同時に、情報収集が行われた61カ国の人身取引被害者に占める女性の割合も3分の2と高くなっています。

#### **腐敗：**

腐敗に関して正確かつ有意義なデータを得ることはきわめて困難です。把握された事件は、実際の問題の規模を反映していないため、研究者は他の測定方法を開発しています。

例えば、代表サンプルによる調査で、前年中の贈賄者数に関する情報を得ることができません。調査結果を見ると、企業による政府関係者に対する贈賄は、税務または市町村職員よりも、警察や医療部門などに対するものが多くなっています。

UNODC が最近、アフガニスタンの国民を対象に行った腐敗に関する調査でも、国民の半数以上（52%）が最近1年間の公務員とのやり取りで、少なくとも1回の贈賄を強いられたことが明らかになっています。アフガニスタン国民は治安の悪さや失業よりも、公務員による不正を大きな問題と捉えています。

#### **刑事司法制度：**

UN-CTS のデータによると、2006年の住民10万人当たりの警察官数は世界平均で300人程度となっていますが、国の間できわめて大きなばらつきが見られます。これに比し、検察官の数はどの国でもはるかに少なく、中央値で住民10万人当たり6人となっています。

成人刑務所の職員数は国によって住民10万人当たり2人から160人と差が大きく、中央値では51人となっています。

住民10万人当たりの警察官と被疑者の数に相関関係は認められないため、警察官を増やせば犯罪事件の解決率も高まるとはいえないようです。

#### **刑務所：**

刑務所の収容人数は過去10年間、ほとんどの国々で増えており、全世界での増加率は60%から75%となっています。

裁判前に勾留される被疑者の割合がきわめて高い国が多く、これが刑務所における過剰収容の主因の一つとなっています。アフリカと米州では、（データ入手可能な諸国のうち）3分の1の国々で裁判前勾留者の割合が刑務所収容者の半数を超えており、過剰収容もこれら地域で最も深刻となっています。

**結論：**

全世界的な犯罪の全体像をより正確につかむためには、国、地域および国際レベルで犯罪と刑事司法に関する統計不足を解消することが急務といえます。

さらに詳しくは、下記をご覧ください。

[www.unis.unvienna.org](http://www.unis.unvienna.org)

[www.unodc.org](http://www.unodc.org)

[www.crimecongress2010.com.br](http://www.crimecongress2010.com.br)

ライブ・ウェブキャストは下記をご覧ください。

[www.un.org/webcast/crime2010](http://www.un.org/webcast/crime2010)